

## 会 議 録

会議名 (審議会等名)		第 1 2 回相模原市観光振興審議会				
事務局 (担当課)		環境経済局経済部商業観光課 電話 0 4 2 - 7 6 9 - 8 2 3 6 (直通)				
開催日時		令和元年 7 月 2 日 (火) 午後 2 時 0 0 分 ~ 3 時 1 5 分				
開催場所		相模原市民会館 3 階 第 1 大会議室				
出席者	委員	7 人				
	その他	-				
	事務局	7 人				
公開の可否		可	不可	一部不可	傍聴者数	1 人
公開不可・一部不可の場合は、その理由						
会議次第		1 開会 2 議題 ( 1 ) 仮称：第 3 次相模原市観光振興計画における基本的施策 (案) について ( 2 ) 今後のスケジュールについて 3 閉会				

## 審 議 経 過

主な内容は次のとおり。

### 1 開会

### 2 議題（○は委員、 は事務局の発言）

内藤会長が議長となり議事を進行した。

- ( 1 ) 仮称：第3次相模原市観光振興計画における基本的施策（案）について  
事務局から説明した後、質疑応答を行った。

主な意見等

- 2027年のリニア中央新幹線開通に向けて、橋本駅がハブとなり、金原地区を含めた交通ネットワークを構築していくはずだが、スケジュール感が重要であるのでしっかりと検討してほしい。
- 紙媒体の観光情報の発信から、スマホ・タブレットからの情報発信へと転換していくとあるが、紙媒体での情報発信も重要な役割があると考えるので、それぞれの特徴を生かして情報発信をしてほしい。
- 観光トイレ等のハード面の整備についての記載はあるが、Wi-Fi等のソフト面の整備についてはどうしていくのか。  
Wi-Fiについては、相模湖と藤野の観光案内所に設置しているが、今後、相模原駅や橋本駅等の本市の主要な駅への設置について検討していきたい。
- バス・電車等の利便性の改善について、相模湖地域にはカナダのポートチームが訪れ、藤野地域は多くの外国人が訪れていると聞いているので、直通電車の増発等、引き続き交通事業者への要望を続けてほしい。
- オリピックレガシーの観光資源としての活用とあるが、津久井地域でのレンタサイクル等は検討しているのか。  
本市が策定を進めている自転車活用推進計画の中で、民間企業等の協力を得ながら、観光に活用できる形でのシェアサイクルについて検討をしている。シェアサイクルが二次交通対策になる側面もあるのではないかと考えている。
- シェアサイクルは都心でも導入しており、差別化を図るためにもロードバイクのレンタル等、相模原市独自のものを検討してもらいたい。
- サイクルツーリズムの推進について、安全性の問題等、自転車に乗る方の目線だけでなく、歩行者やバス利用者の目線も考慮してほしい。
- 事業を実施するにあたり、高齢社会で後継者や担い手不足といった問題が出てくる。ノウハウ等を継承していくためにも、一般社団法人相模原市観光協会を中心としたネットワークの構築や観光協会の統合等について前向きに取り組んでもらいたい。
- 地域の観光協会を紹介してもらって、市内の駅から地域を歩いて回るハイキングコースを提案したところ、商品として採用された。地域の良さを知ってもらっ

たり、観光コンテンツの商品化を促進したりするためにも、観光協会等のネットワークづくりは重要と考える。

- リニア中央新幹線や JAXA といった最先端技術の産業観光はとても魅力的なものと考えている。山口県の宇部興産専用道路の見学のような「大人の修学旅行」もあるので、人が呼べるコンテンツだと思う。

- 観光振興によって経済波及効果が生まれ、雇用が促進されることが観光の目的と考えている。現状、相模原市では、人は来てもお金が落ちているとは言えず、お金を落としてもらえるような仕組みづくりが重要になってくる。

本市の観光客の特徴として日帰りが多く、観光消費額が低いといった課題がある。お金を落としてもらえる仕組みづくりについてはしっかりと検討していきたい。

- 宿泊施設の誘致が難しかったら、グランピング 等を推進してもいいのでは。

#### グランピングとは

グランピングとは、グラマラス（魅惑的な）とキャンピングの合成語で、大自然を楽しみながら高級ホテル並のサービスが受けられる施設類を指す。

- 地域観光もボランティアだけではなく、利益をあげなければ将来的に立ち行かなくなってくるので、根底にはビジネス面の視点も重要である。

- インバウンド誘致の具体的な施策はないのか。

インバウンドの推進の考え方にに基づき施策を提示しているが、インバウンドそのものの考え方の記述について、もう少し明確に示したい。

- 観光協会・商工会といった２種類の団体があるが、サービス業の分野等、重なる部分があるので、事業の融合や提携等を検討してもいいのでは。

- 先日、新聞で市内の大学と市内業者が協同で商品を開発しているのを見たが、こういった取組が広がり、市内でローカルブランドが育っていいと思う。

- 人材育成は重要視していくべきで、行政の職員は何年かで異動してしまい専門家として期待するのは難しい。やはり民間事業者や地域の方から専門家に育っていくのが望ましいので、いかに民間事業者に手を挙げてもらうか、いかに地域の方に積極的に動いてもらうか、仕組みをつくっていくことが重要になってくる

- 外国人労働者の受入や市内の大学生の活用等、地域にいる人材を育成していきながら、地域の方と一緒に観光振興していくことが重要である。

## (2) 今後のスケジュールについて

事務局より令和元年度の計画策定に係るスケジュールを説明

次回の観光振興審議会を8月30日（金）14時から開催することを決定した。

以上

## 相模原市観光振興審議会委員出欠席名簿

区 分	氏 名	所属団体等		備考	出欠席
		名称	役職等		
学識経験者 ・ 専門家	内藤 錦樹	桜美林大学	名誉教授	会長	出席
		観光振興アドバイザー			
公募委員	高橋 陽子	公募委員			出席
関連団体	北村 美仁	(一社)相模原市観光協会	専務理事	副会長	出席
	大貫 幸雄	大島観光協会	会長		出席
	佐藤 泉	相模湖観光協会	会長		欠席
	関戸 昌邦	津久井商工会	会長		欠席
民間事業者	井上 康	(株)J T B 相模原支店	支店長		出席
	高堂 智佳	東日本旅客鉄道(株) 橋本駅	駅長		出席
	福重 隆一	相模湖リゾート(株) (富士急行(株))	専務取締役		出席